

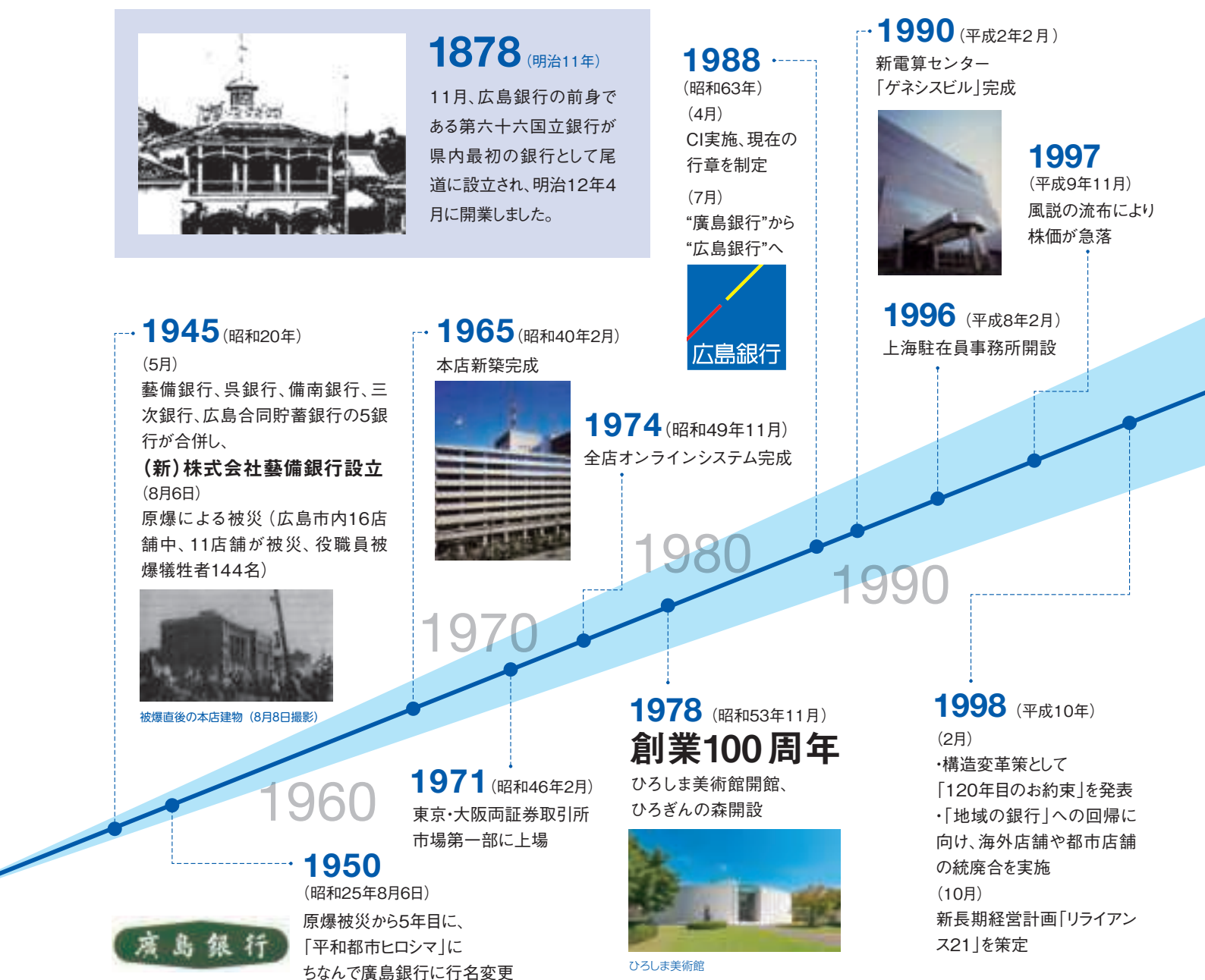
沿革

広島銀行は、1945年(昭和20年)8月6日の原爆投下から僅か2日後の8月8日に、日本銀行に営業室を借り受け、営業を再開しました。お客さまのほとんどが無印鑑、無通帳でしたが、行員の記憶に基づき、便宜的に払い戻し請求に応じました。急場の臨機応変な対応にもかかわらず、後日さしたる紛争もなく広島銀行の信用を保持し得ました。

原爆からの復興後は、地元経済の発展とともに順調に業容を拡大しましたが、バブル経済崩壊後の1997年(平成9年)11月に、風説の流布による株価急落と預金流出という2度目の大きな危機が起こ

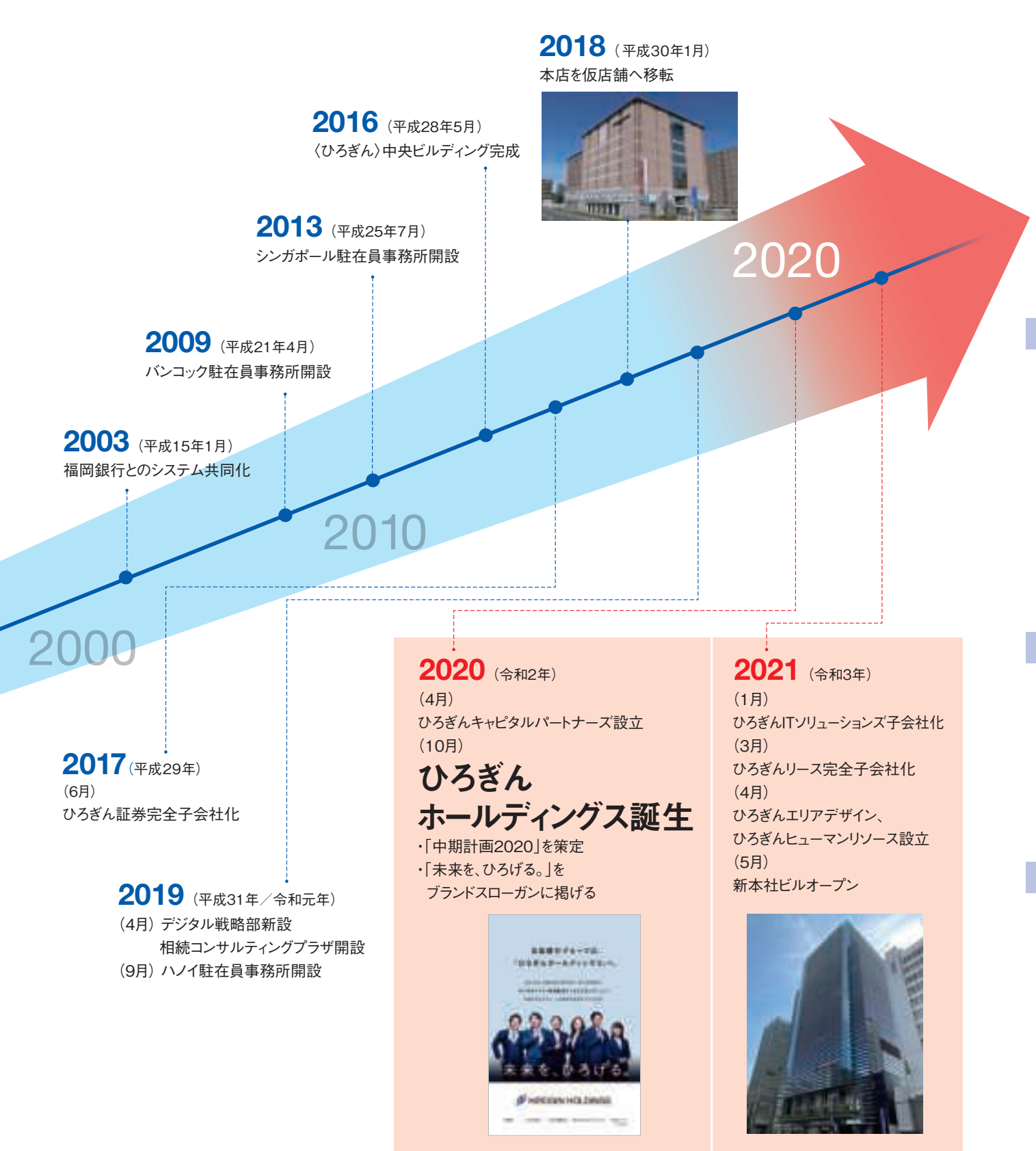
りました。広島銀行の業績や資産内容等を積極的に公開し、全従業員がお客さまを訪問して説明するとともに、大胆な構造改革を断行することで、市場からの信頼を回復させることができました。

2度の大きな危機に直面しながらも、お客さまの温かいご支援と従事者の真摯かつ誠実な取組みにより、苦難を乗り越え、今日まで成長することができました。強い使命感と責任感を大切にする「お客さま本位の業務運営」のDNAは、現在も変わらずひろぎんホールディングスに受け継がれています。



1940 ～ 1960 ～ 1970 ～ 1980 ～ 1990 ～

1945年 原爆投下 1964年 東京オリンピック 1973年 第一次オイルショック 1985年 ブラザ合意 1991年 バブル崩壊
1979年 第二次オイルショック 1989年 消費税導入 1995年 阪神・淡路大震災



広島銀行

ひろぎんホールディングス

2000～

2010～

2020～

2005年 ペイオフ全面解禁
2006年 日銀がゼロ金利を解除
2007年 米国でサブプライムローン
問題発生
2008年 リーマン・ショック発生

2011年 東日本大震災発生
2012年 第二次安倍内閣発足
「アベノミクス」スタート
2013年 日銀が
「量的・質的金融緩和」を導入

2016年 日銀がマイナス
金利政策導入
2018年 平成30年7月
豪雨
2019年 新元号「令和」発表

2020年 新型コロナ
ウイルス感染症
拡大